

頭陀袋

(70)

平成三十年四月号

発行 中山かんのん

恩林寺

中山中学下、電話三三四一一一四五



*山号について

下岡本にある願生寺様は山号を〈海塩山〉真光寺様は(萱垣山)と申します。ほぼどこのお寺にも山号というのがあって、もともと、山の裾、山の上、などにお寺があつたので○○山、○○寺といったのでしよう。

一分は生まれつき、九分は親の教え

うちの子はハイハイをし出すのが遅いような気がする。

隣の子はひらがなが読めるのに、うちの子はどうしてまだ読めないのだろう。

なぜ、うちの子だけ逆上がりができるないの?

様々なことで親は、わが子とほかの子と比べたがる。

劣っていると不安になり、どうしてなかと竜立つのもよくあることだ。

江戸時代の学者、林子平(はやししへい)が書いた「父兄訓」では親のそういうた

態度を一刀両断している。「わが子が他人の子に劣っていることに腹が立つて、ののしり叱る親がいる。これはあまりにも無理、無体な事である。子供が劣るのは生まれつきではなく、親の教育が悪いからなのだ。子供の出来は一分が生まれつき、残り九分は親の教えによる。子供をみれば親が賢いかどうかまでわかるものだ。子は親の鏡のようなもの「勉強しる。」

と口うるさく言う前に自分もまず学び、成長することが大切でしょう。近年はマスコミが悪い、学校の先生が悪いと、責任転嫁している例が多いように思えます。

*お寺の近況

三月十八日(観音様のご縁日)恩林寺では涅槃忌が勤まりました。

当日は、関市、正渙寺様、各務ヶ原、清見寺様、高山、宗猷寺様、恩林寺住職、鳳雅禪士が奉仕くださいました。

お釈迦様が亡くなつた時の涅槃図の解説、三月におこなわれました黄檗山禪堂の雲水さんたちによる遠鉢(えんぱつ)の様子について報告いたしました。また、鳳雅禪士の黄檗山学生寮にこの三月から入寮することなどを報告させていただきました。